

2

まちの特徴と課題

2-1. まちの特徴

<まち全体における特徴>

【商業】【観光】

- ・ 個性ある蒲田特有の文化(蒲田食文化や下町の要素)
- ・ 交流やまちの活性化に繋がるイベントや祭りの開催

【業務】

- ・ ものづくりのまち

【業務】【観光】

- ・ 羽田空港や HICity との近接性
- ・ ホテル需要の高さ、外国人宿泊客の増加

【暮らし】

- ・ 若い単身世帯や、外国人居住者の増加
- ・ 専門学校などの教育環境拡充等による学生の増加

【業務】【暮らし】【建物】

- ・ 商業や業務、住宅などの様々な用途が共存する複合市街地

【交通】【防犯】

- ・ 環境にやさしい自転車利用の多さ

【美化・景観】

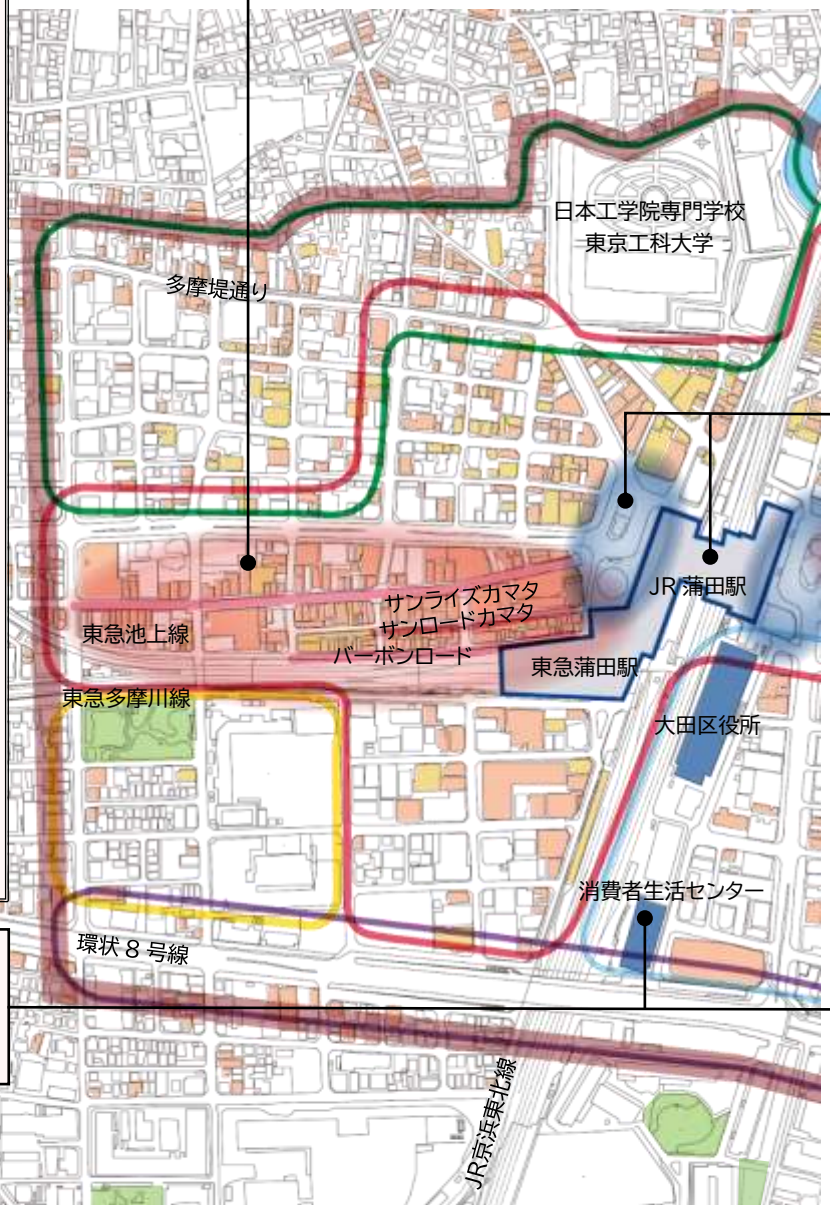
- ・ 界限性のある蒲田らしいまちなみ

【自然・環境】

- ・ 地域住民等による緑化活動

【商業】

- ・ 個性や活力のある店や商店街の存在
- ➡ 西) サンライズカマタ、サンロードカマタ、バーボンロード 等
- ➡ 東) ぽぷらーど、あすと商店街 等



【暮らし】

- ・ 文化、芸術の場の存在

□ エリア

- ・ 用途地域*: 商業地域

駅を中心に個性的な商店街が連なり、飲食店や小売店舗、遊興施設が集積し、界限性のある賑わい空間が広がる。人通りが多いエリア

□ エリア

(西: 京浜東北線より西側)

- ・ 用途地域*: 商業地域及び

近隣商業地域

商業、業務、集合住宅、学校、ホテルと多様な用途が立地するエリア

□ エリア

(東: 多摩堤通り沿道)

- ・ 用途地域*: 近隣商業地域

商業、集合住宅、専門学校、ホテルなど多様な用途が立地するエリア。多摩堤通り沿道は建物の共同化・再開発が進み、比較的大きな集合住宅が立地

【駅・駅前広場】

- ・複数の鉄道路線が乗り入れる蒲田駅
- ・多様な交通手段が集積する交通結節点*

【交通】

- ・蒲田駅を拠点とする、充実した区内バス路線網

【歩行者空間】【自然・環境】

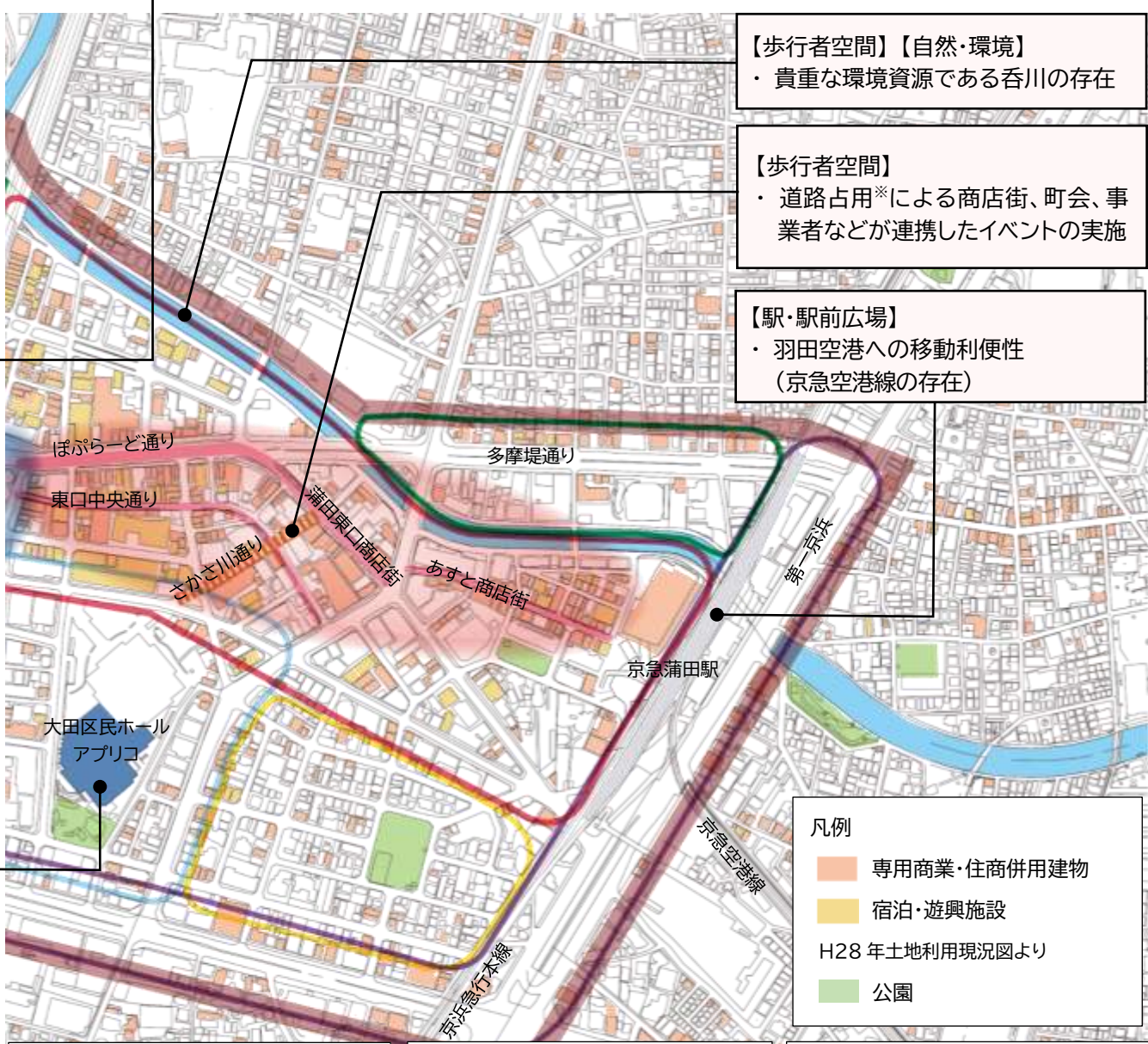
- ・貴重な環境資源である呑川の存在

【歩行者空間】

- ・道路占用*による商店街、町会、事業者などが連携したイベントの実施

【駅・駅前広場】

- ・羽田空港への移動利便性（京急空港線の存在）



□ エリア

- ・用途地域*: 商業地域

大田区役所本庁舎をはじめとする官公庁施設や業務機能が多く立地し、ワーカーが多いエリア
芸術（音楽・美術など）を楽しめる区民ホールが立地

□ エリア

- ・用途地域*: 第1種住居地域

学校や公園が立地し、住宅が集積しているエリア

□ エリア

- ・用途地域*: 近隣商業地域（環八沿道）
商業地域（第一京浜沿道）

幹線道路が「特定緊急輸送道路*」に位置づけられ、沿道建物の建替えや耐震化が求められているエリア

2-2. まちの課題

<まち全体における課題>

【商業】

- ・ 商店の減少と後継者不足
- ・ 多様化するニーズに対応しきれていない

【暮らし】

- ・ 公共施設が分散配置されており、区民サービスの提供機能が不十分

【観光】

- ・ 歴史や観光資源が活かされていない（松竹キネマ蒲田撮影所など）
- ・ 区内外へのPR不足

【歩行者空間】

- ・ 移動利便性・回遊性の不足

【交通】

- ・ 荷捌き車両などによる交通阻害

【交通】【エバ・カルデザイン※】

- ・ JR・東急蒲田駅－京急蒲田駅間の距離（800m）

【交通】【防犯】

- ・ 自転車駐車場の不足

【建物】

- ・ 人々が留まり、にぎわいを生むオープンスペース※の不足
- ・ マンション等による商店街の連続性の分断
- ・ 低い容積使用率

【建物】【防災】

- ・ 多くの老朽化建築物の存在
- ・ 細街路や木造建物による防災面での不安
- ・ 災害時の帰宅困難者等の受け入れ施設の不足や災害活動拠点としてライフライン途絶時における区役所の機能継続に対する不安

【美化・景観】

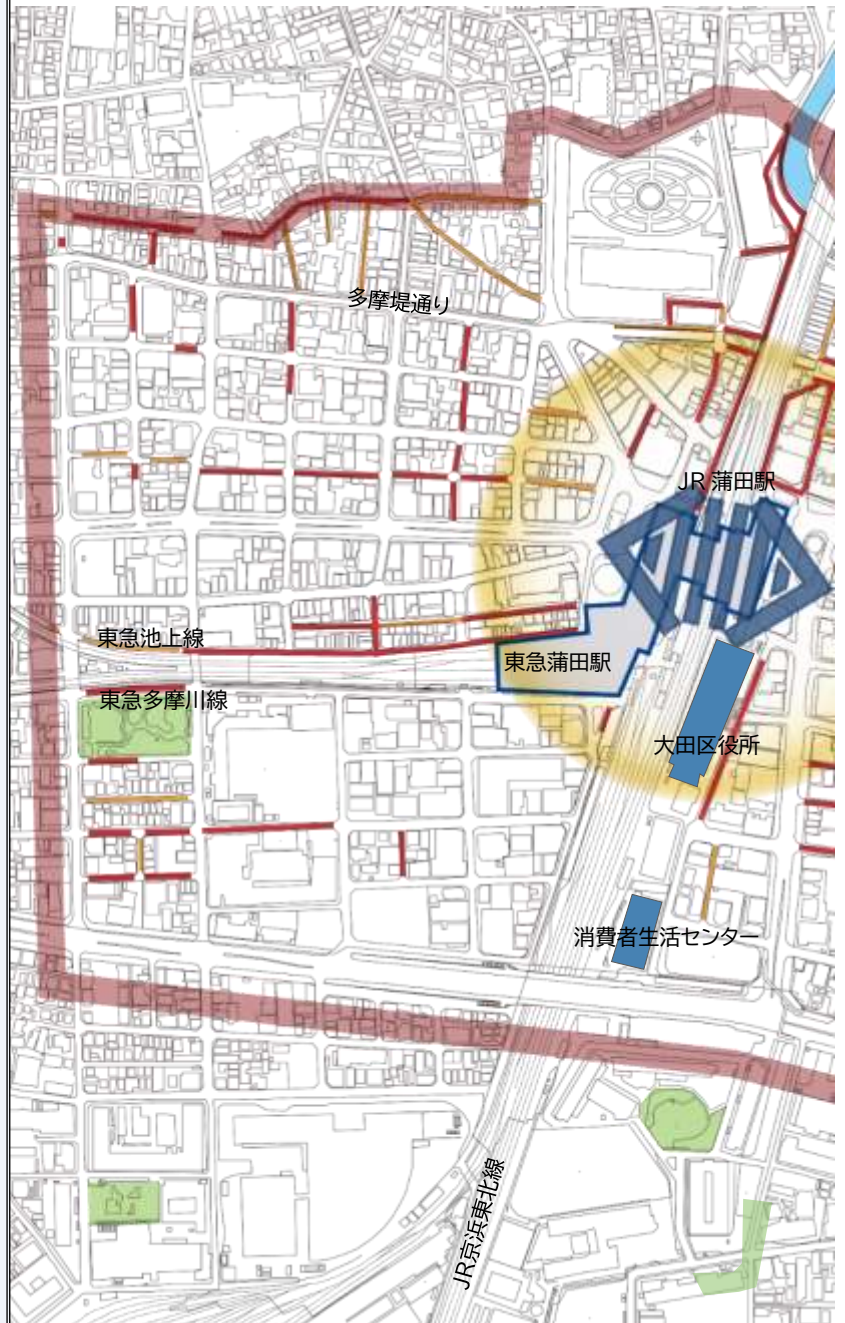
- ・ 違法看板等による美観の悪さ

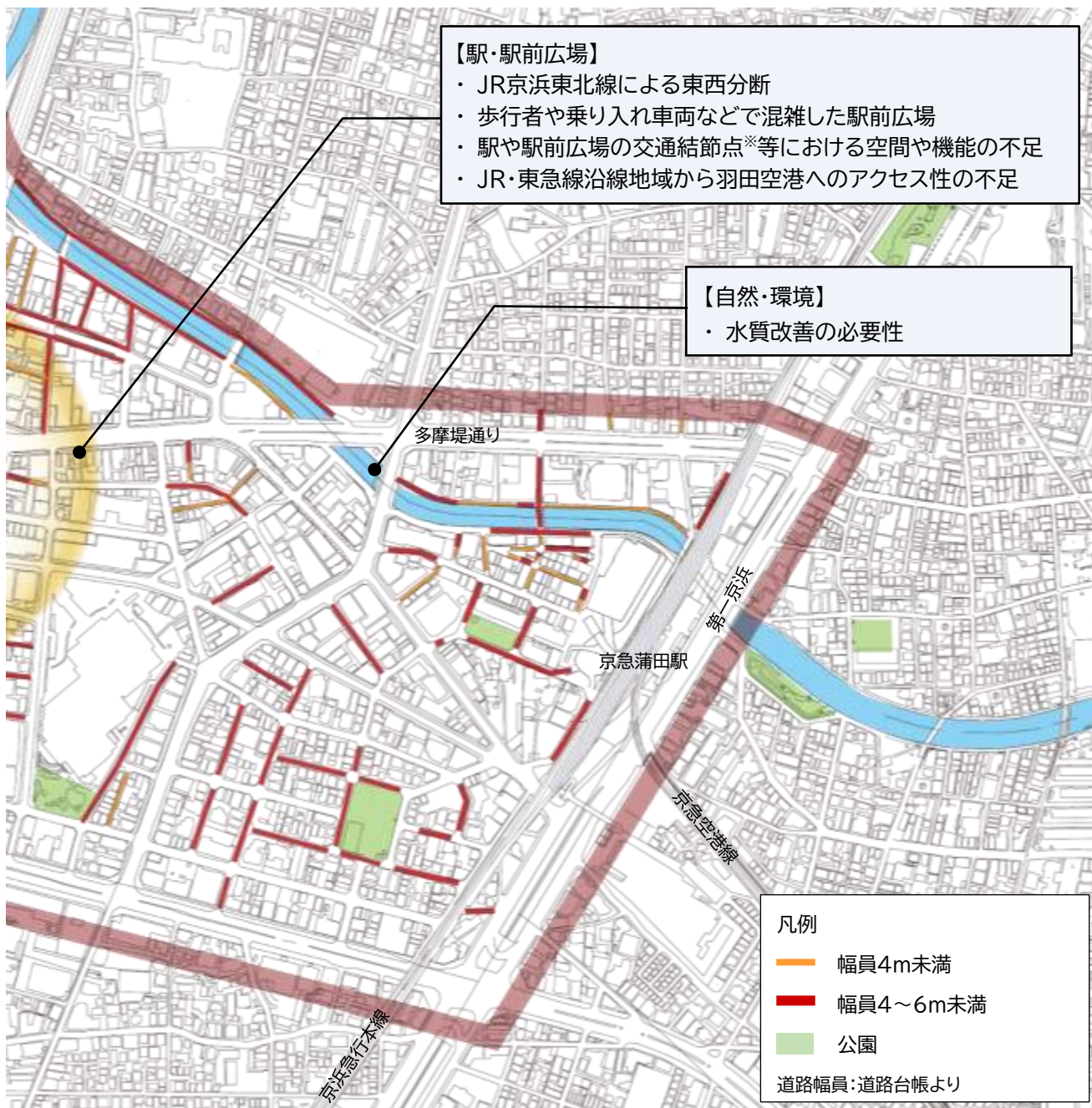
【自然・環境】

- ・ 環境資源の不足（緑被率※の低さ等）

【防犯】

- ・ 自転車利用マナーの不足
- ・ 治安の悪さ





3

まちの将来像

3-1. まちの将来像

「にぎわいあふれる多文化都市、 誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」

時代に応じて求められる新しい技術や環境が整い、利便性高くゆとりある空間が多様な文化や習慣を受け入れると共に、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人などの多彩な活動により、いざろどり豊かな魅力を生み出しています。この魅力に惹かれて、国内外から多くの人々が集まり、まちは活気づき、にぎわいあふれ、持続的に価値を高め発展しています。



目指すべき将来像は時代が変わっても普遍的なことから、グランドデザイン（平成22年策定）で示した将来像を継承することとします

3-2. 将来像の実現に向けて

1) 都市構造

将来像の実現に向け、本地区の特徴や役割を踏まえ、まちの骨格となる地区内拠点及び都市骨格軸を設定します。

【地区内拠点（JR・東急蒲田駅前拠点・京急蒲田駅前拠点）】

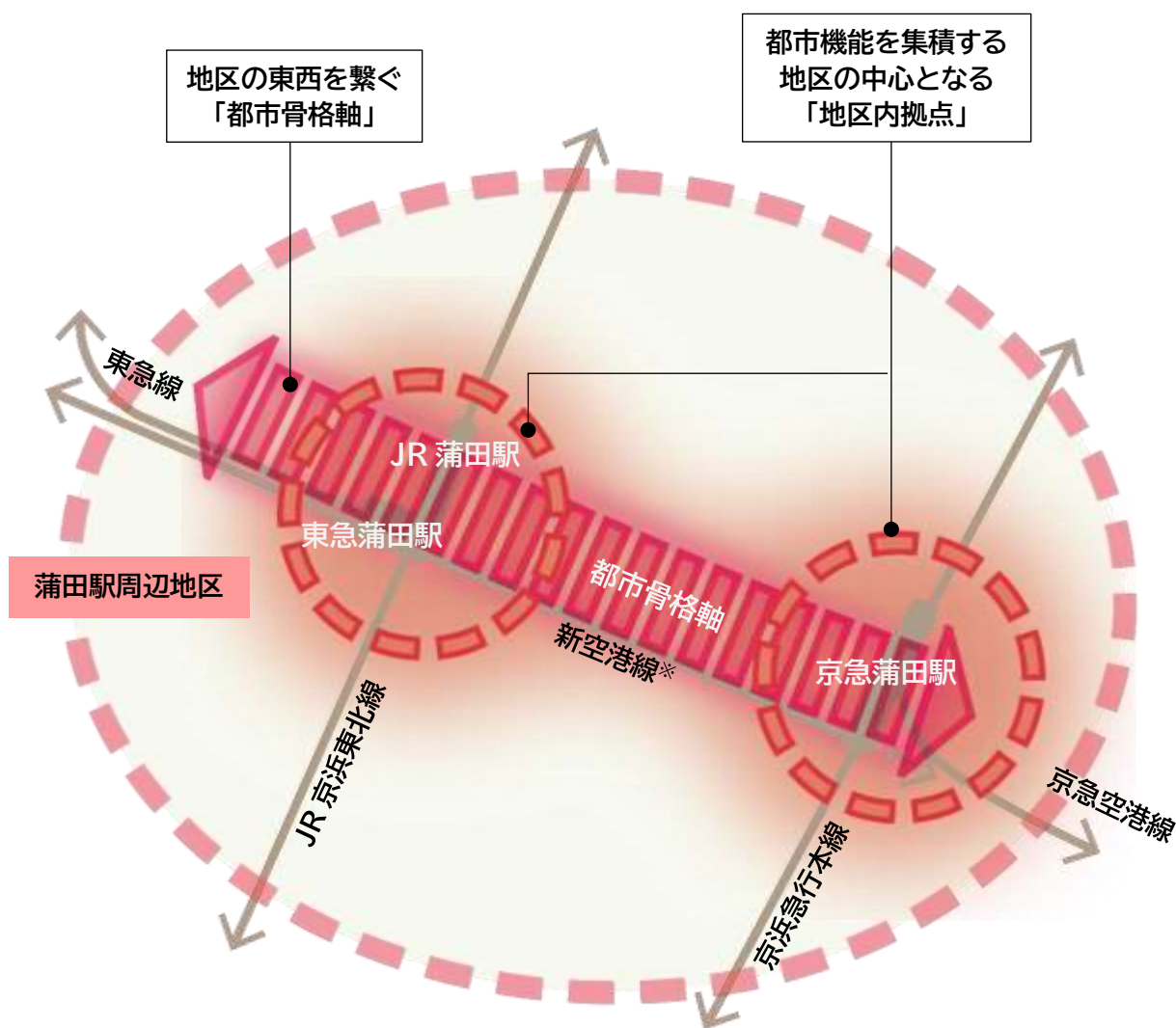
区内外をつなぐ交通結節点※であり、まちの中心である JR・東急蒲田駅及び京急蒲田駅とその周辺を「地区内拠点」に位置付け、より重点的・積極的なまちづくりを推進し、駅からまちをスムーズにつなぎ、人々をまちへ誘導します。

【都市骨格軸】

本地区の東西と地区内拠点間をつなぐ軸を「都市骨格軸」に位置付け、まち全体をつなぎ一体性を創出し、にぎわいの広がりをつくります。

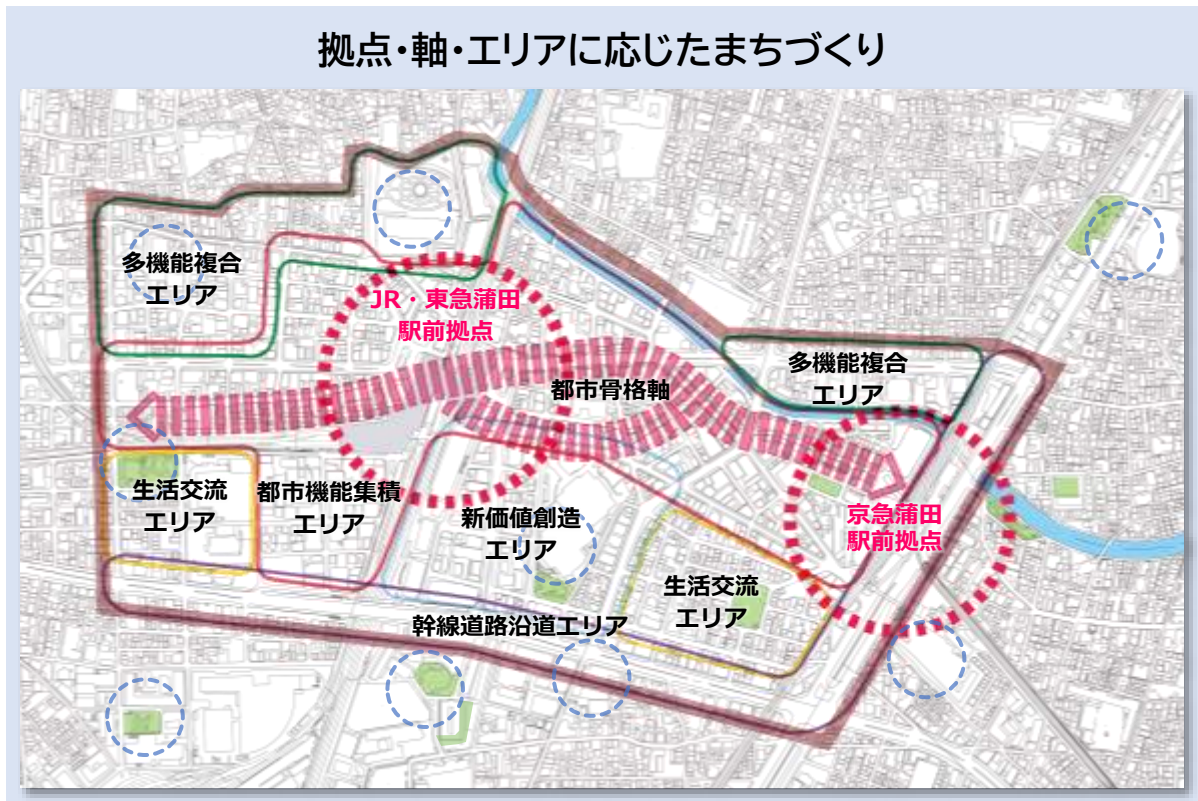
（ 2核1軸の都市構造 ）

ヒト・モノ・コトを集め、骨格を中心として生じるにぎわいが地区全体に波及する、2つの拠点を軸が繋ぐまちの骨格を形成します。



2) まちづくりの方向性

「第2章 まちの特徴と課題」で整理した通り、本地区は特性に応じて5つのエリアに区分されます。前項の都市構造で示した2つの地区内拠点とまちを繋ぐ都市骨格軸や5つのエリアの役割に加え、特徴に応じた取組（アクション）を総合的・横断的に行うことにより、まち全体が活気とにぎわいにあふれ、持続的に価値を高め発展させていくことを目指します。



3) エリア区分の考え方

各エリアの特徴を活かしたアクションにメリハリを付けて進めることが重要です。

なお、エリアに明確な境界はなく、隣り合うエリアと相互に融合しています。境界付近では隣接するエリアに配慮した取組を行っていくことが必要です。

都市機能集積エリア		生活交流エリア	
新価値創造エリア		幹線道路沿道エリア	
多機能複合エリア			

連携施設

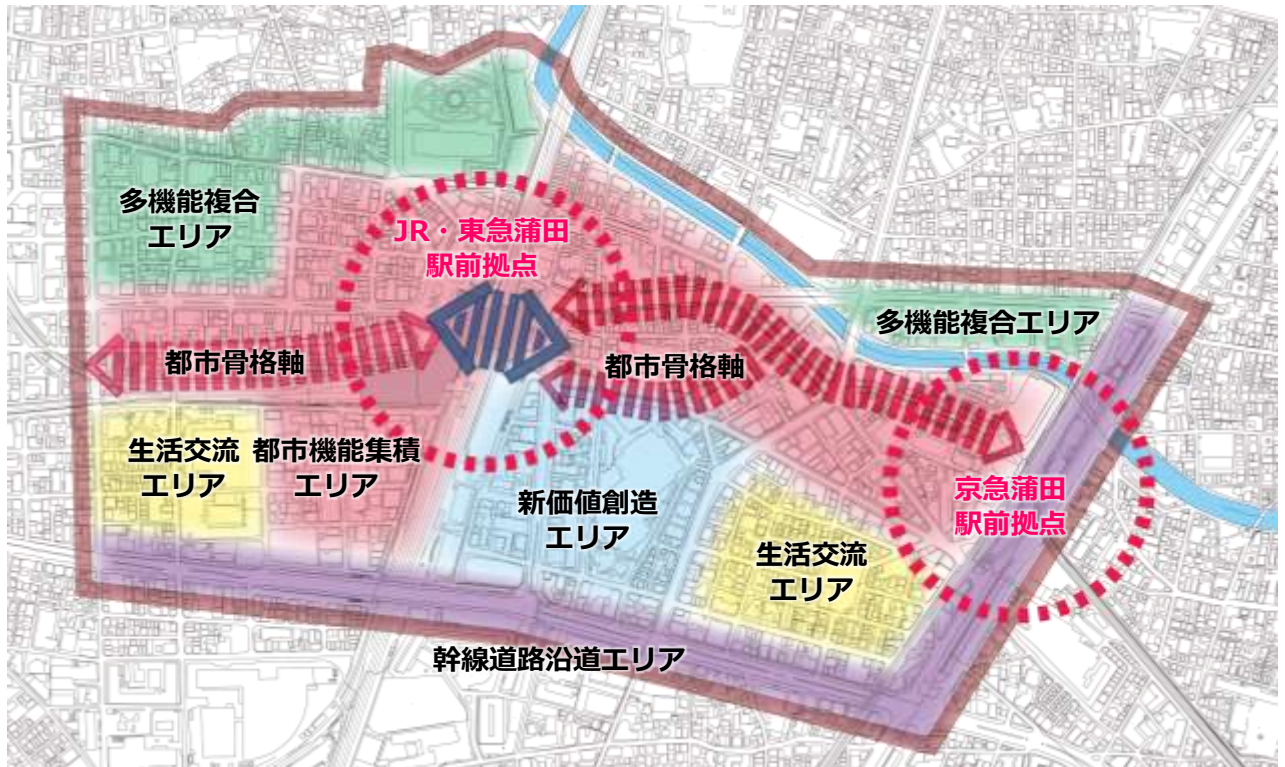
本地区内に誘導する機能との連携・相乗効果により、蒲田地区の活性化、利便性・防災性の向上が期待できることから、連携のあり方等について検討していく。検討の深度化に応じて、必要な取組や地区計画[※]などの制度を活用し、効果的・効率的な土地利用を促進し、本地区内との更なる連携強化を図る。

4

拠点・軸・エリアのまちづくり

4-1. 拠点・軸・エリアのまちづくり

各拠点・軸・エリアが担う役割や特徴を踏まえ、各場所で特に重点的に取り組む方策（重点方策）



地区内拠点



JR・東急蒲田駅前拠点

国内外やまちを繋ぎ、利便性が高くまちの顔となる
交通結節機能の強化

- (1) 駅の東西、駅とまちを円滑に繋ぐ歩行者空間の創出
- (2) 公共交通の乗換えを支え、にぎわい溢れる駅前空間の創出
- (3) 交通結節点※にふさわしい都市機能の強化



京急蒲田駅前拠点

人々をまちに呼び込む、玄関口にふさわしい
来街者を魅了する駅前拠点の形成

- (1) 国内外からの来街者を迎え入れる玄関口の形成
- (2) 調和の取れたまちなみと安全で快適な歩行者空間の形成

都市骨格軸



都市骨格軸

商業などが連続し、にぎわいの広がりをつくる
歩いて楽しいストリートの形成

- (1) 沿道のにぎわいが連続するまちなみの形成
- (2) 道路と沿道が一体となったにぎわい溢れるストリートの創出
- (3) 安心して快適に拠点やまちを繋ぐ歩行者環境の形成

を示します。

エリア



都市機能集積エリア

様々な都市機能が集積し、人々を惹きつけ・留める
にぎわいの創出

- (1) 商業・業務を中心に多様な機能が集積する複合市街地の形成
- (2) 多様な活動が展開され、にぎわい溢れる空間の創出
- (3) 安全で環境にやさしい市街地の形成



新価値創造エリア

ビジネス・文化などが集約し、人々の活発な活動・交流による
新たな価値の創造

- (1) 人々や企業の交流を育み新たな価値を生み出す市街地の形成
- (2) 集い・学び・交流が生まれる空間の創出
- (3) 安全で環境にやさしい市街地の形成



多機能複合エリア

周辺住宅地と本地区を繋ぎ、水と緑を感じる
地域に根差した活力の創出

- (1) 多様なライフスタイルに対応する市街地の形成
- (2) 水と緑が感じられる生活環境の形成



生活交流エリア

学びや交流の場となる学校や公園などを中心として
地域への愛着や親しみの育成

- (1) 人々が交流し、繋がりを育む生活環境の形成
- (2) 安全で安心して暮らせるまちづくりの推進



幹線道路沿道エリア

広域的な移動を支え、街路樹や災害に強い建物が立ち並ぶ
安全で快適な沿道環境の整備

- (1) 安全で安心な幹線道路沿道の整備促進
- (2) 快適で円滑な移動を支える沿道環境の創出

1. グランドデザインの
改定にあたって

2. まちの特徴と課題

3. まちの将来像

4. 拠点・軸エリアの
まちづくり

5. まちづくりの目標と
分野別方針

6. まちづくりの取組

7. JR・東急蒲田駅前
拠点の施設整備

8. グランドデザインの
実現に向けて



拠点 JR・東急蒲田駅前拠点

国内外やまちを繋ぎ、利便性が高くまちの顔となる

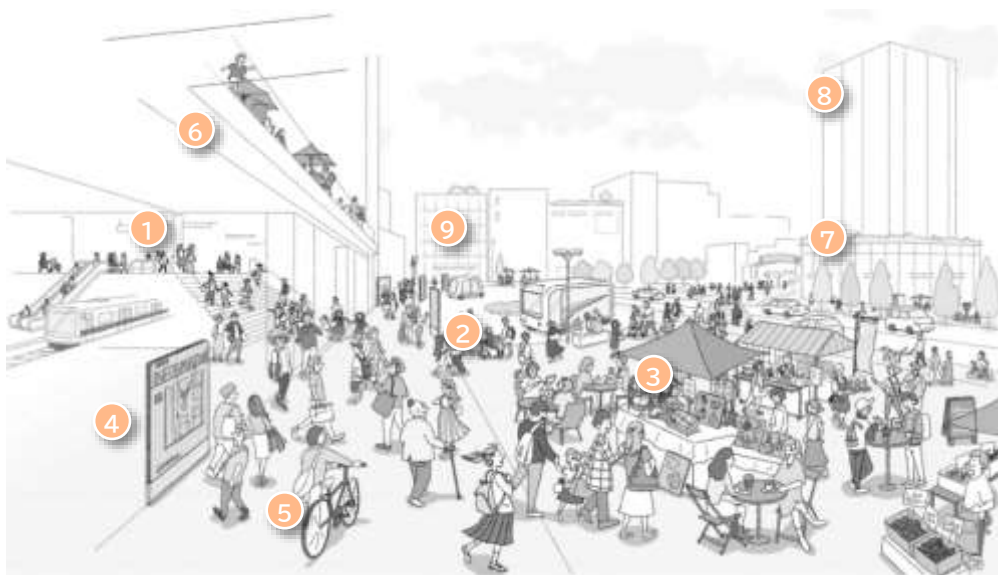
交通結節機能の強化

(将来イメージ)



(重点方策)

- (1) 駅の東西、駅とまちを円滑に繋ぐ歩行者空間を創出します
- ・ JR・東急蒲田駅東西の分断を解消し、連携を高めると共に、駅利用者の円滑な乗換えを実現する東西自由通路と北側通路の整備に向けた検討
- (2) 公共交通の乗換えを支え、にぎわい溢れる駅前空間を創出します
- ・ 様々な交通手段の円滑な乗換えを支え、人々をまちへとスムーズに繋ぐ、駅前広場の機能向上
 - ・ 駅前空間の活用によるにぎわいの創出
- (3) 交通結節点※にふさわしい都市機能を強化します
- ・ 交通結節点※として快適性・利便性の高い、駅前広場と連携した駅舎・駅ビルの機能更新や周辺街区の共同化による土地の高度利用
 - ・ 建築物の機能更新や周辺街区の共同化に合わせた都市機能の集積

(将来イメージの解説)**解説**

- 重点方策 (1)** ① 駅の東西を快適につなぐ東西自由通路
- 重点方策 (2)** ② 多様な活動が展開される駅前広場
③ オープンスペース※等を活用したイベント等の実施
④ 案内誘導など分かりやすいサイン
⑤ 駅前広場における自転車の押し歩き
- 重点方策 (3)** ⑥ 駅前広場と連携した駅舎・駅ビルの機能更新
⑦ 駅周辺街区の建替えや共同化、街区や公共施設の再編
⑧ 環境性能、防災性に優れた建築物
⑨ 建築物の機能更新等に合わせた商業・業務・宿泊機能等の集積



拠点 京急蒲田駅前拠点

人々をまちに呼び込む、玄関口にふさわしい

来街者を魅了する駅前拠点の形成

(将来イメージ)



(重点方策)**(1) 国内外からの来街者を迎え入れる玄関口を形成します**

- ・観光情報センター等を観光の起点として観光や文化の情報発信・文化体験等の実施
- ・駅前広場など様々な空間におけるイベント等の開催
- ・羽田空港へのアクセス性を活かし、建築物の共同化等に合わせた駅前に相応しい多様な機能の集積

(2) 調和の取れたまちなみと安全で快適な歩行者空間を形成します

- ・地区計画*により共同化を促進し、人々でにぎわう公開空地や街路空間の創出
- ・玄関口として、来街者を迎え入れ、まちへ誘導する駅前広場や主要街路等のサイン整備・バリアフリー機能の強化

(将来イメージの解説)**解説****重点方策 (1)**

- ① 観光情報センター等による観光施策の展開
- ② オープンスペース*等を活用したイベント等の実施
- ③ 新空港線*の整備と鉄道間の快適な乗換え空間の形成
- ④ 建築物の共同化等に合わせた商業・業務・宿泊機能等の集積

重点方策 (2)

- ⑤ 地区計画*による共同化
- ⑥ 移動しやすいバリアフリーな歩行空間
- ⑦ 案内誘導など分かりやすいサイン
- ⑧ 自由な移動を支える先端技術と交通モード



軸 都市骨格軸

商業などが連続し、にぎわいの広がりをつくる

歩いて楽しいストリートの形成

(将来イメージ)



(重点方策)

- (1) 沿道のにぎわいが連続するまちなみを形成します
 - ・沿道のにぎわいが連続するよう、低層部に商業や業務が配置されストリートに顔を向けたまちなみの形成
 - ・低未利用地^{*}や駐車場の出入口等によるにぎわいの連続性の分断を防止
- (2) 道路と沿道が一体となったにぎわい溢れるストリートを創出します
 - ・建築物の共同化等と合わせ、公開空地や歩行者空間などオープンスペース^{*}の創出と道路空間の再編。それら空間の活用によるにぎわいの創出
- (3) 安心して快適に拠点やまちを繋ぐ歩行者環境を形成します
 - ・JR・東急蒲田駅-京急蒲田駅間の円滑な移動を支えるサイン・バリアフリー機能の強化
 - ・地区内外をストレスなく移動できるよう、パーソナル・グリーンズローモビリティ^{*}の導入

(将来イメージの解説)**解説**

- 重点方策 (1)**
- ① 通りに顔を向ける低層部への商業や業務等の配置
 - ② 低未利用地^{*}や無秩序な駐車場の出入口等の抑制
- 重点方策 (2)**
- ③ 歩行者空間と一体となったオープンスペース^{*}の創出
 - ④ 歩行者の回遊と多様な活動を支える道路空間の再編
 - ⑤ 歩行者空間等を活用したイベント等の実施
- 重点方策 (3)**
- ⑥ 安全で快適な、バリアフリーな歩行空間
 - ⑦ 案内誘導など分かりやすいサイン
 - ⑧ 自由な移動を支える先端技術と交通モード



エリア 都市機能集積エリア

様々な都市機能が集積し、人々を惹きつけ・留める

にぎわいの創出

(将来イメージ)



(重点方策)

- (1) 商業・業務を中心に多様な機能が集積する複合市街地を形成します
- ・個性ある商店を中心に、業務・生活利便・娯楽施設等、地域住民だけではなく来街者やビジネスパーソンなど人々のニーズに対応した多様な機能の集積
 - ・低未利用地※や無秩序な駐車場の出入口等を抑制し、低層部への商業や業務等の配置により連続するまちなみの形成
- (2) 多様な活動が展開され、にぎわい溢れる空間を創出します
- ・建築物の共同化等の促進と合わせ、公開空地や歩行者空間などオープンスペース※が創出され、まちなかで人々がにぎわい・留まるためのイベントなどの実施
 - ・地域住民等と緑化や美化活動を推進するとともに、地域住民や事業者が主体となったまちの魅力を高めるマネジメント活動の促進
- (3) 安全で環境にやさしい市街地を形成します
- ・建築物の耐震化を促進するとともに、共同化等に合わせた無電柱化や緑化の推進、環境負荷の低減
 - ・地域住民の QOL や来街者の利便性向上に資する先端技術の活用

(将来イメージの解説)**解説**

- 重点方策 (1)**
- ① 人々のニーズに対応した多様な機能の集積
 - ② 低層部に商業や業務等の配置
 - ③ 低未利用地※や無秩序な駐車場の出入口等を抑制
 - ④ 老朽化した建築物の共同化等
- 重点方策 (2)**
- ⑤ 人々の活動を支えるオープンスペース※の創出
 - ⑥ オープンスペース※等を活用したイベント等の実施
 - ⑦ まちの魅力を高めるマネジメント活動
- 重点方策 (3)**
- ⑧ 無電柱化や緑化されたまちなみの形成
 - ⑨ 先端技術を活用した、サービスの展開



エリア 新価値創造エリア

ビジネス・文化などが集約し、人々の活発な活動・交流による
新たな価値の創造

(将来イメージ)



(重点方策)

- (1) 人々や企業の交流を育み新たな価値を生み出す市街地を形成します
- ・国内外や都市間への広域アクセス性の高い立地を活かし、業務機能やビジネスパーソンを支える機能の集積
 - ・区のモノづくり技術をはじめとした先端技術等に関するMICE*の誘致や企業間交流を支える機能の誘導
- (2) 集い・学び・交流が生まれる空間を創出します
- ・歴史等を学び・交流が生まれ、蒲田に対する愛着が育まれる多面的な機能を誘導するとともに、現代アートやデジタルアートの展示など、創造性を生み出す取組の実施
 - ・建築物の共同化等の促進や街区再編と合わせ、交流・活動の場となる公開空地や歩行者空間など道路空間と一体となったオープンスペース*の創出
- (3) 安全で環境にやさしい市街地を形成します
- ・企業等におけるBCP*策定を推進すると共に、再開発や共同化等に際して地域冷暖房施設*の受入れや自立・分散型エネルギー導入の促進

(将来イメージの解説)



解説

- 重点方策 (1)**
- ① 高機能なオフィスやシェアオフィス等業務機能の集積
 - ② 新技術などのショーケースとなる中規模MICE*や産業交流施設の誘導
- 重点方策 (2)**
- ③ 学びと地区への愛着を育む多面的機能の誘導
 - ④ 多様な文化やアートに触れられる機会の創出
 - ⑤ 建築物の建替えや共同化、街区や公共施設の再編
 - ⑥ 人々の活動や交流を支えるオープンスペース*の創出
- 重点方策 (3)**
- ⑦ 企業におけるBCP*の作成等
 - ⑧ 環境性能の高い建築物



エリア 多機能複合エリア

周辺住宅地と本地区を繋ぎ、水と緑を感じる

地域に根差した活力の創出

(将来イメージ)



(重点方策)

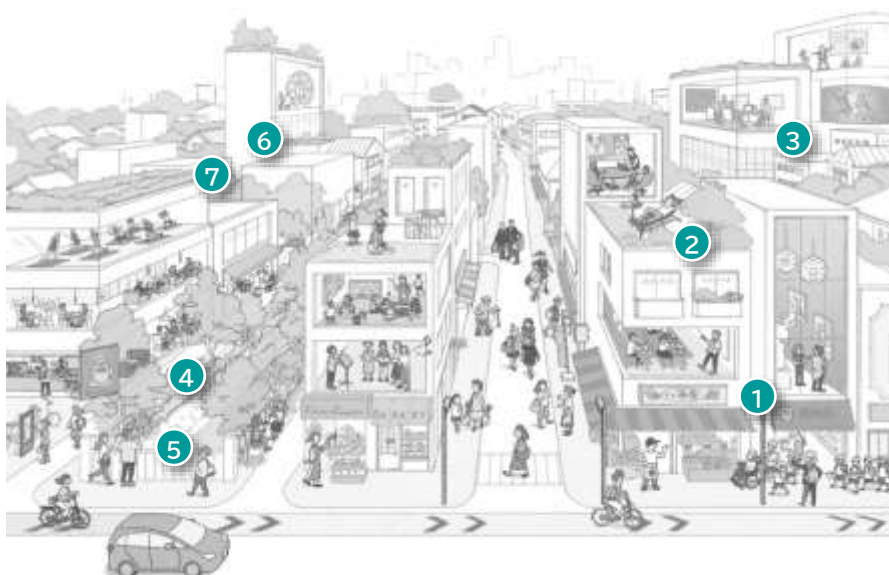
(1) 多様なライフスタイルに対応する市街地を形成します

- ・住商近接の立地特性を活かし、商業や業務をはじめ、医療・教育・子育て等の生活支援機能の誘導
- ・観光客やビジネスパーソンを支える滞在施設（中長期型を含む）やワーキングスペース等の誘導

(2) 水と緑が感じられる生活環境を形成します

- ・呑川沿いを親水空間として活用するため、水質の改善や水と緑が楽しめる沿道の整備
- ・建築物の建替えを促進するとともに、あらゆる場所への緑の創出

(将来イメージの解説)



解説

重点方策 (1)

- ① 商店や学習塾等、暮らしを支える機能
- ② 国内外からの観光客やビジネスパーソンが中長期滞在できる宿泊機能
- ③ ビジネスパーソンが快適に働くことのできる、まちなかの小さな仕事場

重点方策 (2)

- ④ 緑を感じながら散歩できる呑川沿道の緑化の推進
- ⑤ 潤いのある親水空間の創出に向けた、呑川の水質改善
- ⑥ 老朽化した建築物の建替え
- ⑦ 官民の垣根を超えた緑の創出

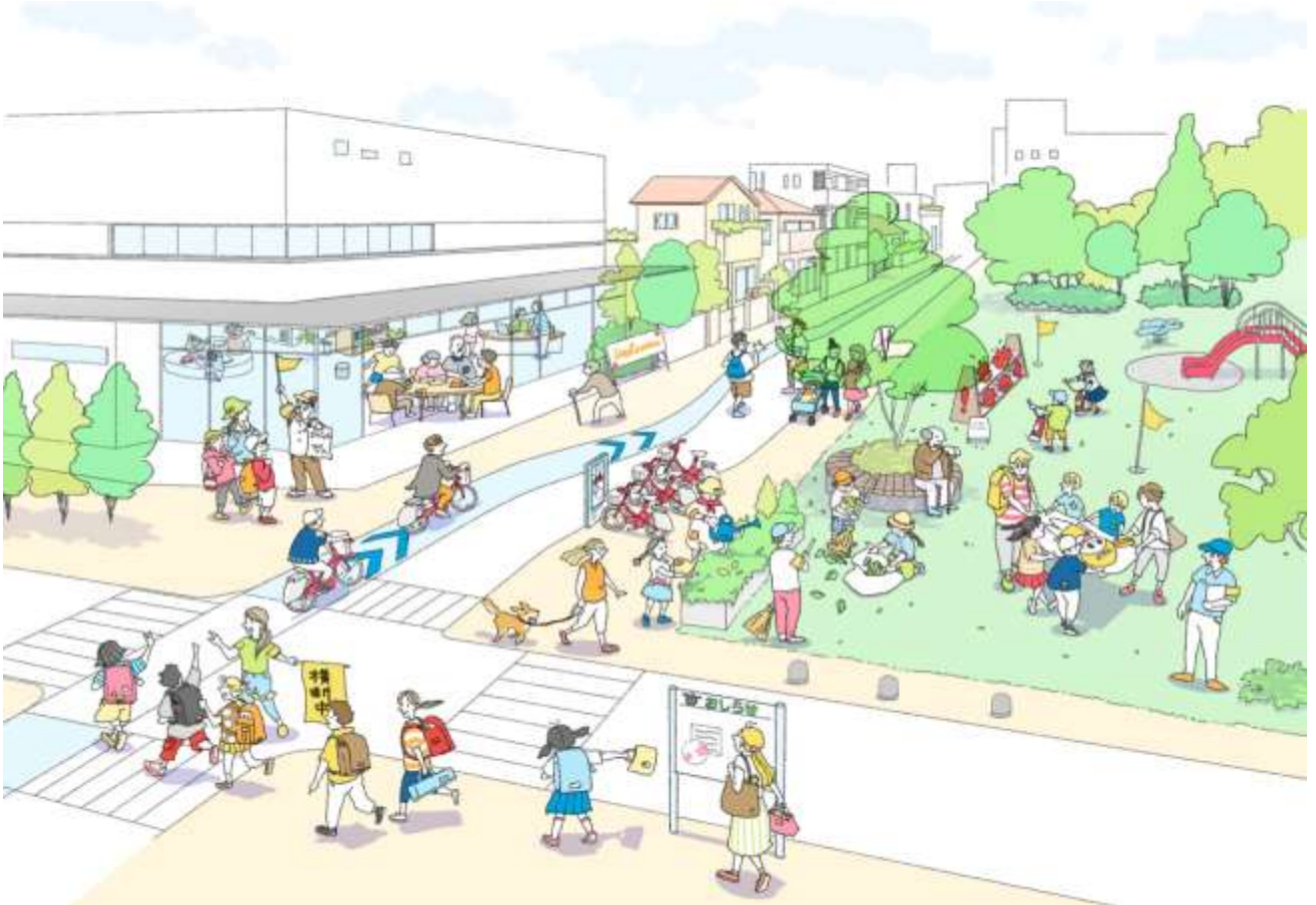


エリア 生活交流エリア

学びや交流の場となる学校や公園などを中心として

地域への愛着や親しみの育成

(将来イメージ)

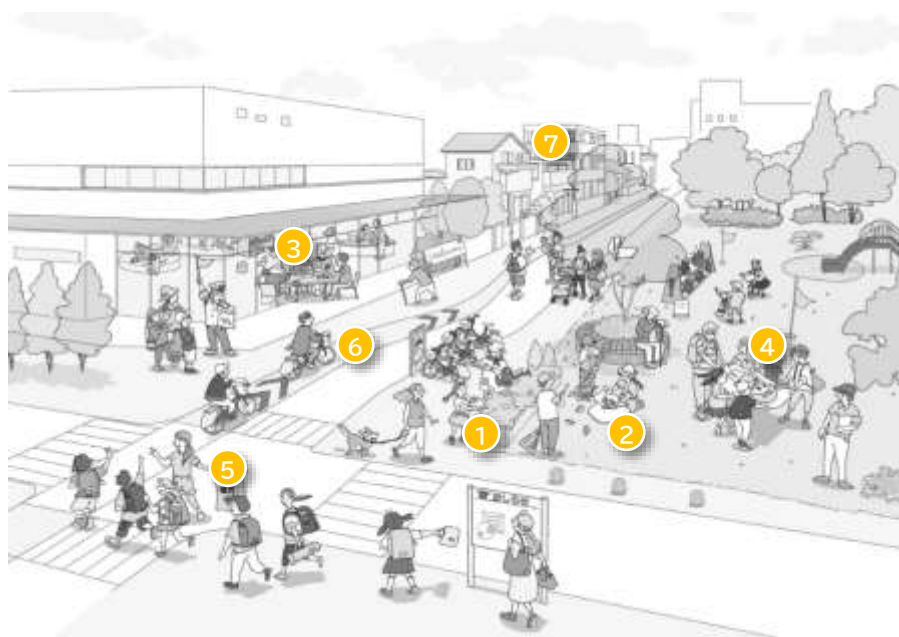


(重点方策)**(1) 人々が交流し、繋がりを育む生活環境を形成します**

- ・公園等の緑づくりや美化活動に取り組み、居心地の良い生活環境を創出するとともに、交流の促進を図る地域イベントの実施やサークル等への積極的な参加に繋がる取組の推進

(2) 安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します

- ・地域防災力を高める防災訓練の継続的な実施や、パトロール活動への支援
- ・自転車利用マナーやルールの啓発活動に取り組み、安全な移動環境を創出
- ・あらゆる場所に緑を創出し、環境に配慮した省エネルギー設備の導入促進

(将来イメージの解説)**解説****重点方策 (1)**

- ① 地域ボランティアによる花壇づくりや緑豊かな公園の整備
- ② 地域住民等による清掃活動
- ③ 活発に行われている地域イベントやサークル活動

重点方策 (2)

- ④ 災害時に備えた防災訓練や避難情報等の周知
- ⑤ 地域が一体となっていく見守り活動やパトロール活動
- ⑥ 自転車利用マナーやルールの啓発活動
- ⑦ 建築物等の建替に合わせた敷地内の緑化と再生可能エネルギー*の導入



エリア 幹線道路沿道エリア

広域的な移動を支え、街路樹や災害に強い建物が立ち並ぶ

安全で快適な沿道環境の整備

(将来イメージ)



(重点方策)

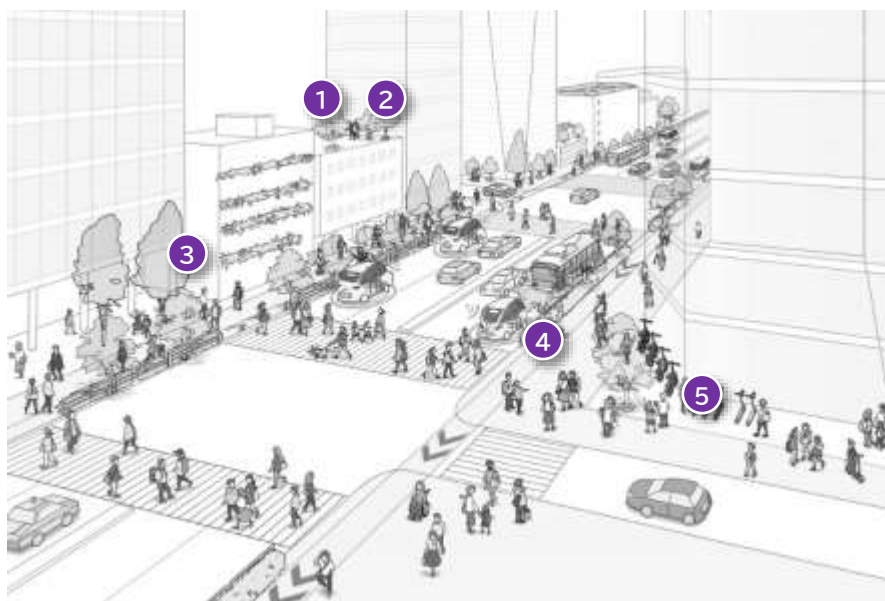
(1) 安全で安心な幹線道路の沿道整備を促進します

- ・沿道建築物の耐震化を促進するとともに、建替え等に際しては高い防災性能を備えた建築物への誘導等

(2) 快適で円滑な移動を支える沿道環境を創出します

- ・街路樹や沿道の緑化による連続した緑の創出
- ・次世代モビリティなど、将来動向に応じた道路空間のあり方等の検討

(将来イメージの解説)



解説

重点方策 (1)

- ① 老朽化した沿道建築物の建替えに合わせた耐震化の促進
- ② 連続した建築物による、後背地への交通騒音の抑制や延焼遮断帯の形成

重点方策 (2)

- ③ 官民の垣根を超えた、沿道の緑化整備
- ④ 次世代モビリティが共存する道路空間
- ⑤ 自由で快適に移動できる交通手段の活用

5

まちづくりの目標と
分野別方針

5-1. まちづくりの目標

将来像の実現に向けて、拠点・軸・エリアのまちづくりを進めるうえで、3つの目標を設定します。「環境」が整った様々な「空間」で多様な「活動」が展開され、にぎわいが創出されるまちづくりを推進していきます。

目標1

文化・交流・にぎわいを生み出す

「活動」の創出

個性的で魅力ある店舗等による商業活動、企業による経済活動、人々による地域活動、観光客を受け入れる活動など、多彩な「活動」により人々を惹きつけ、にぎわいあふれる複合市街地を目指します。

商業の活性化に向けた取組はもとより、企業等の業務機能やそれを支える機能、暮らしの場として生活を支える機能等の集積を図ります。また、様々な人々が出会い、交流し、活動が活性化する機会を創出します。

目標2

地域の価値を高める

「空間」の充実

利便性の高い公共交通や質の高い駅空間、JR・東急蒲田駅東西やまちを繋ぐ歩行者空間、まちの随所にあるゆとりある空間など、充実した都市「空間」が多様な人々を受け入れ、回遊や滞在を促し、地域全体の価値が高まることを目指します。

羽田空港へのアクセス向上を図る新空港線※の整備、蒲田駅の東西や駅とまちをスムーズに繋ぐ東西自由通路や駅前広場の整備等を推進します。また、歩行者にやさしい歩行者空間の形成、老朽化建築物の共同化等を推進します。

目標3

安心して快適に過ごせる

「環境」の向上

地震や水害などの災害に強い環境、誰もが使いやすく多様な人々を受け入れる環境、個性的で魅力ある環境など、豊かな「環境」が人々に快適さや安心感を与えるまちを目指します。

災害対策の拠点として災害に強いまちづくりを推進するとともに、減災や災害発生時の早期復旧に向けた備えの強化や、関係者の連携した防災活動等により、まちの安全性を高めます。また、誰もが分かりやすく移動しやすい環境の整備、ゆとりを与える緑の確保やエネルギー消費を減らす取組などを推進します。

(横断的取組による相乗効果の創出)

個々の取組による効果を更に高めるためには、「活動」「空間」「環境」に渡る複数の取組を横断的・総合的に行うことが有効です。

5-2. まちづくりの分野別方針

前項で示す3つの「まちづくりの目標」を踏まえ、13の分野別方針を設定します。

目標1

文化・交流・にぎわいを生み出す「活動」の創出



分野別方針1【商業】

いきいき元気な商業のまち

駅周辺は、商業を中心に発展してきましたが、居住者の増加や消費者ニーズの多様化など商業を取巻く環境が変化しており、競争も激化しています。

多様な人々のニーズに応じた商業の集積を促進するとともに、蒲田らしさを活かしたイベントの開催や情報発信に取り組み多様な人々を呼び込むことで、地域住民や来街者でにぎわうまちを創出し、商業で生まれる活力が将来に持続する商業のまちを目指します。



分野別方針2【産業・ビジネス】

産業やビジネスが育つまち

東海道軸と新たな広域連携軸（新空港線軸）の結節点である蒲田には東京城南地区の産業・経済の活性化をけん引する中心拠点としての役割が期待されています。

羽田空港との近接性や交通結節性を活かし、業務機能、産業支援機能やビジネス交流機能などの誘導を図るとともに、羽田空港や HANEDA×Pi0(HiCity 含む)との連携を強化することにより、産業やビジネスが育ち、国内外へ発信することで、多くのビジネスパーソンが集い交流するまちを目指します。



分野別方針3【暮らし】

多様な人々が快適に暮らせるまち

羽田空港の国際化や共同住宅等の増加などに伴い、居住者・学生・外国人等が増えていることを踏まえ、多文化都市として、誰もが安心して暮らせる居住環境の整備が求められています。

地域住民の生活を支える施設や学びと交流の場の充実を図るとともに、文化を育む活動や人々の支えあいを育む機会の充実を図り、誰もが必要なサービスを受けることができ、それぞれのライフスタイルを快適に実現できるまちを目指します。



分野別方針4【観光】

国内外と繋がり、何度も訪れたいくなるまち

羽田空港の機能強化や新空港線※整備などに伴い、蒲田を訪れる人の増加が期待されます。また、蒲田特有の文化に、若者や海外の文化が加わるなど、多様化が進んでいます。

空港利用者など様々な人をまちに呼び込むために、蒲田らしい観光資源や魅力の発信などを進めます。また、おもてなしの体制づくりや宿泊機能の誘導などを行うことにより、国内外の来街者が居心地良く滞在し、多文化の交流を育むまちを目指します。

目標2

地域の価値を高める「空間」の充実



分野別方針5【駅・駅前広場】

ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場

JR・東急蒲田駅を中心とした駅前空間を構成する基盤施設は、駅舎・駅ビルの老朽化、東西ネットワークの分断や駅前広場の機能不足など様々な課題を抱えています。

区の中心拠点として交通結節機能の向上を図るためにも、新空港線※の整備に向けた取組を進めると共に、東西自由通路、駅舎・駅ビルと駅前広場などを含む基盤施設の一体的な整備を進め、ゆとりある空間を有し、駅利用者や地域にとっても利便性の高い基盤施設を目指します。



分野別方針6【歩行者空間】

歩いてめぐり楽しめるまち

魅力的な店や場所が各所にありますが、幅の狭い道路や人の往来を阻害する車両の存在などにより、魅力的なスポットを巡り楽しむための回遊性や快適性に課題があります。

商店街や呑川沿いなど道路では、回遊性に配慮した歩行者空間を創出するとともに、歩行者の安全とまちなみの連続性の確保を進め、思わず歩きたくなり楽しめる歩行者にやさしいまちを目指します。



分野別方針7【交通】

様々な手段で快適に移動できるまち

駅前や商店街などでは、回遊性の向上によるにぎわいの創出が求められていますが、歩道を自転車が行くなど、快適な移動に課題があります。

自転車駐車場や自転車利用環境の計画的な整備と合わせて、歩行者・自転車・次世代型の新たなモビリティなど多様な移動手段の有効活用により、誰もが快適に移動できるまちを目指します。



分野別方針8【建物】

建物の更新や活用が進むまち

老朽化により更新時期を迎えた建築物が増えてきています。また、マンションなどの共同住宅の開発により、商店の連続性が欠如するなどの状況も見受けられることから、まちの魅力や活力の維持・向上が必要です。

共同化・協調化のほか多様な手法による建替えや既存ストックの有効活用を促進し、商業・業務・宿泊機能など多様な機能が調和した複合市街地の形成と土地の高度利用を図ります。商業が集積するエリアでは、低層部には商業や業務機能が連続し、中高層階には業務機能や住宅などの用途がバランス良く配置されたまちを目指します。

目標3

安心して快適に過ごせる「環境」の向上



分野別方針9【防災】

災害に強いまち

災害時の対策本部となる区役所を有し、また、地域住民だけでなく、ビジネスパーソンや学生などが集中する地区であることから、災害に強いまちづくりが求められます。

大規模災害が発生した際に、機能継続や早期復旧が可能となるまちを目指して、建築物等の耐震化や浸水対策、無電柱化などによる防災対策を進めるとともに、避難対応と帰宅困難者対応を円滑に進めるための体制構築により安全・安心なまちを目指します。



分野別方針10【ユニバーサルデザイン※】

誰もが使いやすく人にやさしいまち

これまで道路の段差解消や公共施設のバリアフリー整備などを中心に進めてきましたが、高齢化や国際化などの社会動向も踏まえて、高齢者・障がい者・子ども・外国人等の誰もが利用しやすい、ユニバーサルなまちづくりが不可欠です。

基盤施設のバリアフリー整備を進めるとともに、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすい」を基本に、サービスやサインなどの情報提供や、時代に応じた先端技術を取り入れた取組等により、人にやさしいまちを目指します。



分野別方針11【美化・景観】

個性と魅力のあるまち

まちなかの風景には蒲田らしい雑多なエリアなど、魅力的な場所が多くあります。一方で、路上放置物や看板、広告の無秩序な設置などにより、美観が阻害されている場所も数多くあります。

多文化都市として誰もが気持ちよく過ごせる環境を整備するため、清掃活動の実施や蒲田らしさを活かした景観の育成により、多くの人に受け入れられるまちを目指します。



分野別方針12【自然・環境】

自然を感じ、環境にやさしいまち

緑の総量は少なく、呑川は有効活用ができていない状況ではありません。四季を通じて自然を感じながら、快適に佇まうことが出来る外部空間の形成が求められます。

自然や潤いを感じ快適に過ごしていただくため、公園や道路の緑化や呑川の親水空間整備等により、まちなかに留まり過ごしていただく環境づくりを目指します。また、脱炭素化に向けて、まち全体で環境負荷の低減に取り組み、地球環境にやさしいまちを目指します。



分野別方針13【防犯】

安全・安心なまち

夜の治安の悪さや違法駐輪など多くの課題があります。課題解決のためには、犯罪発生を抑制するまちの環境づくりが必要です。

地域住民・商店会・警察等と取り組む防犯活動や、自転車マナーや盗難防止に向けた啓発活動などを継続することで、若い人や女性など誰もが安心できるまちを目指します。